

東日本大震災シンポジウム—地球人間圏学の視点

—東日本大震災の教訓を生かして南海・東南海地震に備えるために—

プログラム 総合司会：春山成子(日本学術会議連携会員 三重大学教授)

- 13:00 シンポジウム開会の挨拶
岡部篤行(日本地球惑星科学連合地球人間圏セクションプレジデント 青山学院大学教授)
13:05 会場校挨拶 関西大学副学長

第1部 東北地方太平洋沖地震と津波、被害の実態を科学的に知る

- 13:10 超巨大海溝型地震・津波対策の再考
河田恵昭(日本学術会議連携会員 関西大学教授)
13:40 東北地方太平洋沖地震に学ぶ超巨大海溝型地震の特徴と今後の地震対策
入倉孝次郎(日本学術会議連携会員 京都大学名誉教授)
14:10 堆積物からみた日本海溝における海溝型巨大地震の履歴
澤井祐紀(独立法人産業技術総合研究所主任研究員)
14:40 巨大南海地震の繰り返し間隔と規模
岡村 真(高知大学教授)
15:10 長期的地震危険度評価の方法・成果と課題
奥村晃史(日本学術会議連携会員 広島大学教授)
15:40 仙台・石巻平野における津波の流動
海津正倫(日本学術会議特任連携会員 奈良大学教授)
16:10~16:20 休憩



第2部 災害を次世代に引き継ぐために—自然と人間とのかかわりを考える—

- 16:20 地域レベルでの防災対応や防災教育は、津波減災にどう役立ったか
宮城豊彦(東北学院大学教授)
16:40 東日本大震災の教訓を生かした地理・防災教育
—「温度差」のある関西の教育現場からの提言—
野間晴雄(日本学術会議連携会員 関西大学教授)
下村勝哉(兵庫県立津名高校主幹教諭) 小泉邦彦(西宮市立上甲子園中学校教諭)
17:00 地理基礎・歴史基礎必修化の提言と地図/GISを活用した防災教育の推進
碓井照子(日本学術会議会員 奈良大学教授)



写真提供：氷見山幸夫

第3部 パネルディスカッション

- 17:30~18:10 東日本大震災の教訓を活かすために—南海・東南海地震に備えて—
18:10 閉会の挨拶
氷見山幸夫(日本学術会議連携会員 北海道教育大学教授)
18:15 終了



日時：2011年10月9日(日) 13:00~18:15

参加費：無料。事前申し込み不要。多くの方の参加を期待しております。

場所：関西大学 千里山キャンパス(100周年記念会館ホール)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

阪急電鉄「梅田」駅から千里線「北千里」行で「関大前」駅下車(この間約20分)、
徒歩約5分。または京都「河原町」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて
「関大前」駅下車。関大前駅では南口からエスカレーター利用が便利です。

【問い合わせ】

春山成子(三重大学大学院生物資源学研究所)住所：三重県津市栗真町屋町1577、fax:059-231-9591、haruyama@bio.mie-u.ac.jp
※当日の連絡先は野間晴雄(関西大学文学部)090-2381-9752(携帯電話)、noma@kansai-u.ac.jpまで

主催 日本地球惑星科学連合 地球人間圏セクション

共催 日本地理学会

後援 日本学術会議 地理学連携機構 人文地理学会 大阪府教育委員会* 兵庫県教育委員会* 奈良県教育委員会* 京都府教育委員会*
和歌山県教育委員会* 徳島県教育委員会* 高知県教育委員会* 阪神淡路大震災関係団体* 関西大学 *は申請中